

第3回子ども・子育て会議 会議録（要点筆記）

開催日時 平成31年3月25日（木）午後7時～9時10分
開催場所 南砺市役所福野庁舎 2階 201会議室
出席者氏名 三谷直樹会長、磯辺文雄委員、内山真寿美委員、河合朱希代委員、北清俊一委員、斉藤和枝委員、斉藤優華委員、城岸栄委員、富田利通委員、中島仁司委員、畠中昌代委員、本多篠依委員、築田晶子委員、横山一乃委員（14名）
事務局 高田勇（教育長）、河原洋子（保健センター所長）、武田秀隆（こども課長）、溝口早苗（こども課）、谷戸仁美（こども課）
委託業者 アシスト(株) 田口祥一 主任研究員
欠席者氏名 西井秀子副会長、荒井有紀委員、奥野康宏委員、中井邦夫委員、中西一夫委員、山田誠委員（6名）
傍聴人数 0名

1. 開会

2. 会長挨拶

会長 前は、ニーズ調査（アンケート）について協議いただいた。その協議結果をもとに一部訂正して、12月までにニーズ調査（アンケート）の配布・回収が行われている。市議会では、南砺市内で虐待が26件あったと報告されていたが、これは人ごとではない。今日は、アンケートを記入された方の本当の気持ちを考えて、事務局に説明いただき、委員のみなさまと協議していきたい。

3. 協議事項

事務局 資料の確認、会議の公開等について説明

会長 最初に協議事項（1）平成31年度定員と入園申込状況について

事務局 資料1に基づき説明を行う。平成31年度の認可定員と利用定員について説明
No.14の福野青葉幼稚園の定員を80人から95人に変更したいと考えている。
福野青葉幼稚園については、平成30年度の定員は、80人となっている。平成31年4月1日には91人、32年3月31日には99人と明らかに定員の80人を上回る見込みであることから福野青葉幼稚園から定員変更の申請があった。
福野地域内の出生児数及び就学前児童数は横ばいであるが、平成31年度の福野青葉幼稚園への希望者、特に1・2歳児の希望者が多くなってきており、常時定員を上回ることから、現在の入園見込み状等況を勘案して、定員を80人から95人に変更したいと考えている。
なお、定員95人になっても、面積等の国基準には充分適合している。
城端さくら保育園以下、5つの保育園については、「定員充足率が80%未満となる保育園」

に該当するので、定員の見直しを検討する対象園になっているが、城端さくら、平みどり、上平、利賀ささゆり保育園は、それぞれ、城端地域、平地域、上平地域、利賀地域には唯一の保育園であること、また、福光東部かがやき保育園は、福光東部地域には、認定こども園の福光青葉幼稚園や喜志麻保育園があるが、唯一の公立保育園であることから、これらの5園については、今回は定員変更を行わず、平成31年度の入園実績や今後の出生児の動向、平成32年度の入園見込み状況を勘案し、定員の検討をしていきたいと考えている。

会長 事務局の説明について、質問やご意見を聞かせてほしい。

会長 福野青葉幼稚園の平成31年4月1日現在の児童数は、91人となっているが、1号、2号、3号の割合は、平成31年度利用定員の1号、2号、3号の割合となっているか。

事務局 4月1日の利用人数は、平成31年度利用定員の1号、2号、3号の人数の範囲内の見込みであり、先般、学校法人福野青葉幼稚園の理事会にもかけられたと聞いている。

会長 次に協議事項（2）平成30年度地域子ども・子育て支援事業の状況について

事務局 続いて資料2について説明を行う。

1 子ども人口の推計

平成30年の0～11歳の合計数の実績は4,143人で、平成30年の当初計画推計値の4,066人よりも多くなっている。これは、移住定住制度等子育て支援施策の効果等があるのではないかと考えており、今後も当初計画推計値を上回る状況をできる限り維持していきたい。

2 地域子ども・子育て支援事業のニーズ量

南砺市子ども・子育て支援事業計画にある、10の事業についてのニーズ量の実績及び見込みを記載したもので、3ページ目以降の資料の、それぞれの事業のニーズ量をまとめたものである。

3 施設型教育・保育事業

（1）教育施設（幼稚園、認定こども園）について

この表は、「教育施設」、いわゆる、「認定こども園」（福野青葉幼稚園・福光青葉幼稚園）の幼稚園部分に入園されている、1号・2号認定の利用者数である。市全体としての就学前児童数は減少しているが、認定こども園の需要が高くなっており、前年度に比べて、1号・2号認定の人数が増加する傾向にあり、当初計画値を大きく上回っている。

（2）保育施設（認可保育所、認定こども園、地域型保育施設）について

この表は、「保育施設」、いわゆる「保育園」及び認定こども園の保育園部分に入園されている、2号・3号認定の利用者数である。推計利用者数は、前年度に比べて、就学前児童数の減少等により、2号認定の人数が減少しているが、低年齢児の年度途中からの入園が増加していることから、3号認定の人数が増加している。このため、当初計画値を上回っている。

(3) 認定こども園について

この表は、「認定こども園」（福野青葉幼稚園・福光青葉幼稚園・井波にじいろ保育園）の3園に入園されている利用者数である。

市全体としての就学前児童数は減少している中、特に井波にじいろ保育園の2歳児が前年度より大きく減となったことにより、3号認定の1・2歳が減少しているが、認定こども園の需要が高く、前年度に比べて、1号・2号・3号認定の0歳の人数が増加するため、当初計画値を大きく上回っている。

4 地域型保育事業

(1) 小規模保育事業、(2) 家庭的保育事業 (3) 事業所内保育事業 (4) 居宅訪問型保育事業については、現在南砺市では実施していない事業であり、富山県内でも (3) 事業所内保育事業を2ヶ所で実施している以外は実施していない事業である。

5 相談支援事業

(1) 利用者支援事業について

子どもや保護者の身近な場所で、子育て支援事業等の情報提供や相談・助言を行い、関係機関との連絡調整等を実施する場として、福光保健センターを拠点に実施している。

(2) 地域子育て支援拠点事業について

公立8か所と、私立1か所の市内9か所で行っている子育て支援センター事業のことである。年間総利用者数は17,043人を見込んでおり、当初計画値よりも減少する見込みであるが、出生児数の減少や、低年齢児（0・1・2歳児）の保育園等への入園が増加し、子育て支援センター利用対象者数が減少していることが、大きな要因であると考えている。

6 訪問系事業

(1) 乳児家庭全戸訪問事業について

生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、子育てに関する情報提供や養育環境等の把握を行う事業のことで、平成30年度は、278人を見込んでいる。今年度の出生見込数は、280人であり、訪問率は99.3%である。

(2) 養育支援訪問事業について

養育支援が必要な家庭に対して、居宅訪問し、養育に関する指導・助言等を行うことにより、家庭の適切な養育の実施を確保する事業のことで、平成30年度は、57人の居宅訪問をする見込みである。産婦健康診査事業が平成29年9月から開始になり、医療機関との連携が増えたため、情報提供量が増加している。

7 通所系事業

(1) 子育て短期支援事業について

この事業は、南砺市では実施していない事業である。

(2) 一時預かり事業について

保育園に入園していない未就園児や、市外からの里帰り出産等で、保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、一時的に預かる事業のことで、平成30年度の利用数は、4,137人と減少する見込みである。

ここでも、0・1・2歳児の保育園等への入園が増加してきており、一時預かりの需要が

減っていることが主な要因の一つであると考えている。

(3) 延長保育事業について

平成30年度の利用数は、644人となる見込みで、これは、新制度への移行に伴い、夕方6時～7時だけではなく、早朝7時～8時、夕方4時～6時の保育も延長保育事業となったことにより、保育短時間利用認定の利用者が増加しているため、当初推計値よりも3倍以上に大幅に増加している。

(4) 病児保育事業について

病児保育事業には、(1) 病気になった病児に対応する「病児保育」、(2) 病気回復期の児童に対応する「病後児保育」と、(3) 保育園等に来て体調が悪くなった「体調不良児」に対応する3つの事業があり、南砺市では、(2) と (3) を実施している。当初推計値よりも大幅に利用者数が増加しているのは、看護師等の常駐している公立保育園6園でも、体調不良児に対応する事業を補助事業として採択され、実績として計上したためである。

また、(1) 「病児保育事業」については、現在は実施していないが、来年度途中から実施する予定である。

(5) 放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）について

小学校1～6年生の留守家庭のお子さんを対象に、授業の終了後に子どもの居場所を提供する事業、いわゆる学童保育のことである。平成28年度までに3箇所の放課後児童クラブを増設し、受入人数拡大を図ってきているが、児童総数の減少等により、利用者数は減少傾向にある。

8 その他事業

(1) ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）について

児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と、援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、利用の調整を行う事業のことである。当初計画推計値よりも実績が著しく増加しているのは、児童館や放課後児童クラブの延長対応分をファミリー・サポート・センターで実施しているためである。平成29年7月から、放課後児童クラブの延長制度を設けたため、該当件数が大きく減少したが、平成29年度は特定の方の学校から自宅への送迎があったため、平成29年度はそれほど減少しなかった。平成30年度は、前年度の特定の方の利用がなくなったため、総利用者数が大幅に減少する見込みである。

(2) 妊婦健康診査について

妊娠届をされた方に、年間14回分の無料の健康診査受診票を配布し、保健指導等を実施する事業のことである。妊娠届出者数は、近年300人前後で推移しており、当初計画値の350人までには至っていない。

(3) 実費徴収に係る補足給付を行う事業、(4) 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業については、南砺市では実施していない事業である。

会長 資料2の事務局の説明について、質問やご意見を聞かせてほしい。

会長 妊婦健康診査について、14回すべての健診を受ける方は全体の20%で、12回の方は、

98%となっているが、どうしてこのような差があるのか。

事務局 妊娠届けが遅れるケースなど、正期産であってもすべての妊婦健診を受けることができない場合が多くなっている。健診を受けていない方の情報を医療機関からもらい、本人と連絡を取り状況を把握している。

会長 次に協議事項（3）病児保育事業について

事務局 続いて資料3について説明を行う。

南砺市病児保育事業の概要（案）について説明

目的は、子どもが病気の際に保護者が就労のため自宅での子育てが困難な場合に病気の児童を一時的に保育するなど、安心して子育てができる環境を整備し、児童福祉の向上を図るもの。

改修事業費は、運営費を含めて約1,500万円余り。対象者は、市内の保育園等に通園する満6か月児から就学前児童。定員は、基本的には2部屋で2名。利用時間は、平日の8時30分から17時まで。実施場所は、南砺市民病院内の専用病児保育室。利用料金は、給食費等を含めて2,000円。利用開始は、平成31年10月からの予定。担当職員は、保育士2名。

利用の大きな流れは以下のとおり。

①疾病に罹った児童の保護者が病児保育専用の携帯電話に電話予約をして、担当保育士が受付する。②担当保育士から南砺市民病院の担当看護師に連絡する。③利用当日、南砺市民病院にて利用児童の医師の診察を受けて、担当保育士が保育を実施し、適宜、担当看護師が様態を観察する。④病児保育終了後、保護者へ児童を引き渡す。

会長 資料3の事務局の説明について、質問やご意見を聞かせてほしい。

会長 定員が2名というのは、多いのか、少ないのか。どれくらいの需要があるのか。

事務局 ニーズが多いのはインフルエンザの流行する寒い時期だと考えている。どれくらいの需要があるかはわからないが、他市の状況等をみて2室で2名としている。ただ、病気にもよるが、同じ病気の兄弟であれば、同室に2名入れることも考えている。

会長 どのような病気が対象となるのか。インフルエンザだとすると流行すれば対象者が多くなりすぎないか。

事務局 対象者は、保護者が就労等のために看病することができない方が前提である。南砺市は3世代同居世帯も多く、看病できる祖父母もいるのではないかと。また、企業の考え方も変化してきており、子どもが病気の際には、休みやすい環境になってきている。病気については、インフルエンザ等が対象になっていくと考えている。

委員 南砺市民病院内という事だが、予約しないと受け入れてもらえないのか。例えば、南砺市民

病院で午前中に診察して、その日の午後からの受け入れは可能か。

事務局 基本的には、前日予約で1日の利用と考えている。空きがあれば、当日予約も可能とするかは、今後検討していく。

委員 定員2名は先着順か。また、治るまで1週間べったりと病児保育になることもあるのか。

事務局 定員は先着順である。医師の診察によっては、1週間病児保育になることも考えられるが、医師の診察により病後児保育に切り替えできないか等を検討していく。

委員 保育士2名の体制はどのようになるか。

事務局 病児が1名の場合は保育士1名が保育し、病児が2名の場合は、あと1名がサポートにつくことを考えている。

会長 次に協議事項(4)第2期子ども・子育て支援事業計画策定①ニーズ調査報告書(速報値)について

事務局 続いて資料4について説明を行う。

回収率

就学前児童の保護者は前回よりも7%下がり64%、小学生の保護者は回収方法を変更したこともあり、28%下がり、61%となったが、妊産婦については、2%上がり、67%となっている。

調査結果(委託業者)

P3~4 就学前児童の保護者、小学生の保護者、妊産婦それぞれの年齢や子どもの人数等、構成を示している。

P5 調査回答者は、就学前児童の保護者、小学生の保護者ともに母親が8割を超えており、配偶者の有無については、配偶者がいる方が9割を超えている。この率は5年前の前回調査と変わっていない。

P6 主な親族等の協力者の状況は、日常的に、もしくは、緊急時や用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる方が50%前後と多くなっている。

気軽に相談できる人のいる方は、約90%で、相談できる相談者は、祖父母等の親族(82%)、友人や知人(74%)、保育士(46%)となっており、前回調査と大きくは変わっていない。

P7 母親の就労状況は、就学前児童の保護者、小学生の保護者ともに約90%が何らかの形で就労しており、就学前児童については、前回調査よりも10%上がっている。

父親の就労状況は、就学前児童の保護者、小学生の保護者ともに90%前後となっており、前回調査と変わっていない。

P8 定期的な教育・保育の利用状況は、利用している方が約90%で前回調査と変わってい

ない。未利用理由は、子どもがまだ小さい（51%）、利用する必要がない（39%）、祖父母等がみている（24%）となっており、前回調査と変わっていない。

利用中の教育・保育事業は、認可保育所（76%）、認定こども園（20%）で、認可保育所は8%、認定こども園は6%上がっている。

希望する教育・保育事業は、認可保育所（73%）、認定こども園（29%）、幼稚園（6%）、小規模な保育施設（6%）となっており、認可保育所は変わっていないが、認定こども園が5%上がり、幼稚園が5%下がっている。

P9 地域子育て支援拠点事業の利用は、利用していない（81%）が3%下がり、利用している方（16%）が6%上がっている。

子育て支援事業の周知・利用状況・利用希望で、周知度が高いにもかかわらず、今後利用したい方の割合が低い項目は、乳幼児発育相談、保育園や幼稚園の園庭開放、5か月児離乳食教室となっており、前回調査と変わっていない。

こども課（女性・子ども相談室）を利用したことがある方（17%）が、前回から12%さがっている。

P10 小学校低学年の放課後の過ごし方は、就学前児童の保護者が、放課後児童クラブ（50%）、自宅（49%）、習い事（35%）となっており、小学生が、自宅（64%）、習い事（50%）、放課後児童クラブ（34%）となっている。就学前児童の保護者の放課後児童クラブ希望が、前回調査よりも19%上がり、小学生の放課後児童クラブ希望も前回調査よりも7%上がっている。

小学校高学年の放課後の過ごし方は、就学前児童の保護者の放課後児童クラブが、前回調査よりも15%上がっているが、小学生の保護者の放課後児童クラブ希望は前回調査よりも2%の上昇にとどまっている。

子育て環境や支援への満足度は、就学前児童の保護者が、満足度が高い（9%）、満足度がやや高い（39%）で、合計48%となっており、前回調査よりも20%上がっている。小学生の保護者は、満足度が高い（8%）、満足度がやや高い（32%）で、合計40%となっており、前回調査よりも15%上がっている。

P11 子育てに関する施策の充実度は、今回の調査で新設した項目である。就学前児童の保護者は、充実している（充実している又はわりと充実している）の合計の割合が高く、評価が高かった項目は、幼児教育・保育の質（72%）、保育園等の保育サービス（70%）、子育て家庭への経済的支援（69%）、子育て支援センターの支援サービス（61%）、子どもが健全に育つ環境（58%）となっており、充実している割合が低く、評価が低かった項目は、障害児施策（11%）、ひとり親家庭への支援（14%）、不妊への支援（16%）、児童虐待防止対策（16%）となっている。

P12 小学生の保護者も、充実している（充実している又はわりと充実している）の合計の割合が高く、評価が高かった項目は、子育て家庭への経済的支援（67%）、幼児教育・保育の質（67%）、保育園等の保育サービス（65%）、子どもが健全に育つ環境（64%）となっており、充実している割合が低く、評価が低かった項目は、不妊への支援（12%）、障害児施策（13%）、ひとり親家庭への支援（16%）となっている。就学前児童の保護者と小学生の

保護者の結果が概ね一致している。

P13 今後重点的に取り組むべき施策も今回の調査で新設した項目である。就学前児童の保護者は、身近な子どもの遊び場の提供（53%）、小児医療体制（43%）、放課後の子どもの居場所づくり（41%）となっている。小学生の保護者は、身近な子どもの遊び場の提供（43%）、子育て家庭への経済的支援（42%）、小児医療体制（41%）となっている。就学前児童の保護者と小学生の保護者で、子育て家庭への経済的支援の割合が大きく異なっているが、その他は概ね一致している。

P14 理想とする子どもの人数と実際の子どもの人数は、妊産婦への調査結果である。理想とする子どもの人数は、3人（58%）、2人（34%）となっており、実際の子どもの人数は、2人（54%）、3人（36%）となっており、前回調査と変わっていない。

理想の子どもの数より実際の子どもの数が少ない理由は、子どもの養育や教育のための経済的負担が大きいため（81%）、仕事と育児との両立が難しいから（71%）、出産や育児への心理的な不安や肉体的負担が大きいため（48%）となっており、この項目も前回調査と変わっていない。

P15 会社や職場に望む出産・子育て支援策は、子育て休業中の経済的給付の充実（56%）、子どもが病気等の際の特別休暇の導入（43%）、勤務時間の変更やフレックスタイムの活用等、働き方の柔軟性（41%）となっており、前回調査と順位は変わっていないが、勤務時間の変更やフレックスタイムの活用等、働き方の柔軟性の割合が、17%下がっている。

悩みや不安の相談は、配偶者（71%）、父母（59%）、友人・知人・近所の人（33%）、子育て中の仲間（30%）となっており、前回調査とは、友人・知人・近所の人と、子育て中の仲間の順位が逆になっている。

P16 相談相手・相談場所に希望すること事は、身近な地域で気軽に相談できる場所（45%）、同年齢の子どもを持つ者同士の相互の相談・情報交換のできる場所（40%）、子どもについて何でも相談できる総合的な窓口（33%）となっており、前回調査と順位は変わっていないが、子どもについて何でも相談できる総合的な窓口の割合が、7%下がっている。

子育て支援策の周知・利用状況・利用希望で、周知度が高いにもかかわらず、今後利用したい方の割合が低い項目は、保健センターでの乳幼児発達相談、新生児訪問・赤ちゃん訪問、ファミリー・サポート・センター事業となっており、前回調査と変わっていない。

P17 希望する子育て支援サービスの充実は、保育園、幼稚園の保育サービス内容の充実（74%）、放課後児童クラブの充実（35%）、子育て支援センターの事業の充実（32%）となっており、前回調査と順位は変わっていないが、子育て支援センターの事業の充実（32%）が12%、子育て相談や子育て講座等の充実（27%）が7%上がっている。

子育てする上での住みやすさは、住みやすい・どちらかといえば住みやすいで75%となっており、前回調査よりも11%上がっている。

南砺市に住み続けたいかについては、ぜひ住み続けたい・住み続けたいで67%となっており、前回調査よりも5%下がっている。

全体を通して、前回調査と同じような結果が出ている傾向にある。一部、放課後児童クラブのニーズが高くなっていること、南砺市の施策の満足度が高くなっており、現行計画が一定程

度評価されていることがわかる。

会長 資料4の事務局の説明について、質問やご意見を聞かせてほしい。

委員 P8の定期的な教育・保育の未利用理由で、その他が12%となっているが、具体的にどのような理由か。

事務局 回答が11件あり、産休中である、育休を延長した、育休を3年取得した、一時預かり保育を利用している、就職先が見つからない等の理由である。

委員 P17の南砺市に住み続けたいかという設問は、なぜ妊産婦だけなのか。就学前児童の保護者や小学生の保護者にも聞けば良かったのではないか。

事務局 保育園等で行う別のアンケート調査等があるので、その設問にいれるかどうか検討する。

委員 同じくP17で、子育てする上で住みやすいと回答している方が多いのに、南砺市に住み続けたいという方が減っている理由はどういうことが考えられるか。

事務局 子育てする上での住みやすさは、子育てに限った設問であるのに対し、南砺市に住み続けたいかという設問は、子育てに限ったことではなく、仕事やその他の要素が含まれてくるので、減っていると考えている。

会長 次に協議事項(4)第2期子ども・子育て支援事業計画策定②今後のスケジュールについて

事務局 続いて資料5について説明を行う。

今後、ニーズ調査報告書を作成する。来年度は、第2期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて進めていく。子ども・子育て会議を年4回開催し、計画骨子案や素案、修正案等について審議いただき、平成32年3月には計画を仕上げる予定である。

会長 資料5の事務局の説明について、質問やご意見を聞かせてほしい。

特に意見なし。

会長 次に協議事項(5)南砺市子どもの貧困支援計画の進捗状況について。

事務局 続いて資料6について説明を行う。

まずは、南砺市子どもの貧困支援計画【概要版】について、計画策定の根拠と趣旨、計画期間、主要施策の体系、成果指標について説明

次に、南砺市子どもの貧困支援計画の進捗状況について説明

主要施策1. 教育の支援について

ひとり親家庭の子どもの高校進学はほぼ100%であるが、中退する子どもが一定数おり、在学率は97.4%である。ひとり親への応援制度として入学時の祝い金や高校生通学定期券補助の実施の継続等経済的支援に努める。なんとっ子まなびサポーター、スタディ・メイト、適応指導員の配置がいずれも増加しており、スクールカウンセラーの配置が小学校で増加している。今後も適正な配置による支援体制の充実に努める。

主要施策2. 生活の支援について

放課後の居場所づくりや学習支援を行う、NPO法人による放課後子ども教室が平成30年度から新設されている。今後も、市で推進している小規模多機能自治により、身近な地域での子どもの居場所が充実するよう働きかけていく。平成30年度からNPO法人による制服リサイクル事業が立ち上がり、困窮世帯に支援が届く仕組みづくりの取組に市としても協力していく。

主要施策3. 保護者に対する就労の支援について

ひとり親に対する就職に有利な資格取得を支援するため、高等職業訓練促進事業等の周知・活用促進に努めていく。ひとり親家庭の保護者の就業状況は、95.2%であり、ほとんどの保護者が仕事に就いている状況である。就業していない保護者については、母子父子自立支援員とハローワークが連携し定期的に情報交換を行い、雇用形態の改善に向けた支援に取り組んでいる。就業できない保護者の背景には心身の体調不良が多く見られるが、引き続き、きめ細かな就業・生活相談などの自立相談支援の充実に努めていく。

主要施策4. 経済的支援

こども医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成により、子育て世帯の経済的負担軽減を図っている。ひとり親家庭の生活の安定と自立を促進するため、児童扶養手当の給付を行っている。昨年からは義務教育の就学援助費の前倒し支給を実施し、困窮世帯の適時適切な経済的負担軽減に努めている。困窮率の高いひとり親家庭に対し、毎年行っている児童扶養手当の現況届の面談時において今後も各種支援制度の確実な周知に取り組んでいく。

会長 資料6の事務局の説明について、質問やご意見を聞かせてほしい。

委員 制服リサイクル事業とあるが、勉強机の回収と分配があれば良い。

事務局 検討していく。

委員 大分県の別府市では、リサイクル事業を市が仲介している。

平成30年度から立ち上がったということで、制服リサイクル事業がまだ知られていないので、小学校6年生や中学校3年生に案内すればどうか。

また、福野青葉幼稚園では、卒園したら自主的に幼稚園に持っていき、リサイクルを行っているので、リサイクル率が高い。

委員 小学校でも制服や運動服等のリサイクル事業を行っている。運動服をもらうことができ助かった。また、リサイクルセンターでも自転車のリサイクルを行っている。情報があまり伝わっていないので、このようなリサイクル事業を公共で考えてほしい。

委員 砺波市では、リサイクルの一覧表を張り出し、それぞれ連絡を取りあっている。

事務局 リサイクル事業について、市でできるかどうか検討していく。

委員 指標にある、就労しながら無理なく子育てすることができると思うと回答した割合や、子育てに喜びや生きがいを感じている保護者の割合が、目標値に対してどんどん低くなっている。また、資料2のP6 養育支援訪問事業の年間利用者数が年々増加しているのも、この貧困問題と密接につながっていると思う。このままでは心配であるが、どう考えているか。

事務局 市では、保育園や小学校のときから、支援が必要な方には支援を行なっている。データに関しても、各担当課で連携をとって情報共有しており、今後もしっかりと支援対応をしていく。

会長 最後に協議事項（6）その他について

事務局 10連休の対応について説明

保育園は、4月27日（土）は土曜保育で、4月28日（日）から5月6日（月）までは、休日保育での対応を考えている。希望調査を行い、拠点保育も含めて検討していく。

放課後児童クラブは、実施要綱どおり、4月27日（土）は開所するが、4月28日（日）以降は閉所する。必要な方にはファミリー・サポート・センターでの対応を考えている。

会長 （6）その他の事務局の説明について、質問やご意見を聞かせてほしい。

会長 意見がないようなので、これで会議を終了したい。

4. 閉会のあいさつ

教育長 熱心に協議いただき、たくさんの意見をいただいた。

子ども・子育て支援の施策は、市の目玉である。今回のニーズ調査結果をもとに施策に反映させていきたい。ニーズ調査結果で、満足度が高くても手放しで喜ぶべきではない。「満足していない市民の満足度をどう高めていくか」が大事である。満足していない市民の意見を掘り起こし、次の計画に反映させていく必要がある。

また、誰にも相談できない保護者の支援をしていくことが重要である。

午後9：10 終了